

あ　と　が　き

学長代理 梶 浦 善 次

「研究紀要」第六号が、予定通り刊行されることは、ご同慶にたえない。とくに最近の異常な物価上昇、資材の不足など多くの予想しなかった状況のもと、限られた予算の範囲で、ここまで運んで来られた研究紀要編集委員のご苦労に対して、心から敬意と感謝を申し上げたい。

この第六号は、本年三月で退任される天野智恵美教授の記念号として編集された。教授は、保健体育科の科長として、科はもとより大学の運営と指導にも重責を荷なわれた功労者である。教授におくることばは、北大での恩師でもあられた田所学長およびやはり北大時代からの同僚でありまた知友でもある保健体育学科の奈良岡教授が寄せられた。両先生より玉稿を頂いたことは、まことに人を得たものとして幸いであった。両先生にも改めてお礼を申し上げる。

なお学長田所先生が、研究論文をお寄せいただいたことは、これまたまことに感激にたえない。90才になられる先生が、壯者を凌ぐ健康と活力をもって、今なお生涯の専門とされる生化学的研究を継続されて、一日もこれを廃することなく、次ぎ次ぎと論文にまとめられていることは、全く驚歎に価する。絶えざる研究に基いた、先生独自の科学的な生活は、自己のたてた理性的な原則を忠実に守り、生来の虚弱な体質を克服して思想界の偉業をなしとげた哲学者カントの生活、後世の哲学史家が「批判的生活法」といったものを思い出させる。先生の研究への気魂と情熱は、とかく無為になりがちな私ども後輩を愧死せしめる底のものである。

最後に、論稿を寄せられた各位にお礼を申し上げるとともに、前号から本学が採用した研究紀要編集の方式が、十分に吟味されて、いっそうこれが充実されるように期待したい。